



1,300 問答の建築よろず相談

# YOROZU 通信 NEWS

Vol.05

ニュース 発刊 ; 2018 12月号

## 謡（うたい）と私

私はこのよろず相談支援機構（以下よろずと略称）以外に欠陥住宅関西ネットに所属させていただいています。その他に興味の集まりの交野交謡会（以下交謡会と略称）という団体に所属して活動しています。関西ネットの方は私の健康上の理由から夜の勉強会などは欠席していたりして活動はいまいちの状況です。

よろずと交謡会は自由に気楽に活動させてもらっています。今回は趣味の集まりである交謡会について紹介させていただきます。交謡会は能楽には諸派----宝生、観世、金春、金剛などありますがその中で観世流の能楽の謡や仕舞を主に稽古する同好会です。日本の四季に合わせて年4回の発表会があります。発表会はほぼ1日かけて行われます。その発表会に向けて謡の曲目を決め、シテ、ワキ、ツレなどの役やさらにバックコーラスにたえられる地謡の地頭（地謡の指揮をとる役）を決めて稽古します。個

別の役から外れた場合は個別の曲目を決めて個別に稽古します。現在交謡会は6つの支部に分かれていて稽古はその支部単位で行っています。

謡との出会いは学生時代に遡ります。当時は能楽流派のうち宝生流に所属していました。東京芸大出の若手能楽師がいらっやって稽古をつけていただいていた。私が入会したころは長らく途絶えていたクラブが復活したばかりの時期で部員は主に大学の教員、職員、学生などで構成されていました。学生主体の発表会が年2回水道橋の能楽堂で実施され関東の各大学単位で発表されていました。その他蔵前宝生会という同窓会の発表会が毎月あって参加していました。

設計事務所に就職した時点で一旦謡とは離れざるを得ませんでした。子どもたちも独立したので何か趣味の会にでも入って活動したいなという時期に地元で流派は違うが謡の会があるのを知って入会しました。

謡を通じて様々なことを学ばせてもらいました。学生時代には諸先輩との出会いがあり、とくにお二人の先輩からは後の人生に大きな影響を受けました。一人は電気工業会の会長を務めたこともあるA先輩、もう一人は戦後の混乱期に宝生流の家元など能楽師の生活や面・装束など私財を投じて守ったS先輩のお二人です。A先輩には自宅に招かれたり、クラブの合宿に来て頂き稽古をつけていただいたりしました。稽古中に体全体で受けた感動は一生忘れることはありません。またB先輩には公私ともども言葉に尽くせないお世話になったことは私の人生の宝物です。

現在所属している交謡会には能面作家としても活躍されている先生から普通の主婦など様々な分野の集まりで仕事上の集まりにはない独特の柔らかくて温かい雰囲気があり楽しく参加させてもらっています。